

平小唄の入賞者決定

巖谷小波先生に添削を委嘱 作曲振付の上博覽會に上演

平教育會主催の『平小唄』募集は既記の如く二百七十二篇の多きに及び昨日第一

小學校

に於いて午前十時より會長伏見町長、副會長曾我第一小學校長を始め審査員たる橋本塾中校長、柏木塾新、半谷新いはさ及び本社より川崎社長列席鳩首議議の結果先づ佳作と目するもの十篇を選抜し

嚴密なる採点法に依りて入賞者五名、選外佳作三篇を左記の如く決定した

尚ほ直ちに入賞五篇を巖谷小波氏に委嘱して添削を乞ひ巖谷氏の物色に依る作曲家に節付けを依頼し更らに

大家の振り付に依りて手踊りに仕組み今春の産業博覽會に上演する事となつた

◆一等賞

平白銀町一四
長谷川みどり

1 夏井川邊に今出た月は團扇照らすよ團扇照らすよ
アレタ涼み平よいとこ「月の街」河原に咲いたは月見草

2 松ヶ岡邊にナ散る／＼櫻關伽井嵐に關伽井嵐にアレ
ちらほらと平よいとこ「花の町」霞に降るのは花
3 お城山からナ鳴る／＼鐘

◆二等賞

平五丁目岡部方
大平文平

1 花の新川日ぐれり土手を櫻吹雪にぬれぬれ戻りやま
ねぎますぞえ街の灯がサツサ平の町の灯が

2 宵は本町目ぬきの通り更けりやしんみり新田町朧月
夜に花が散るサツサ月夜に花が散る

3 平五萬石あやめのお濠花はむらさきゆかりの色よ土にや情けの根が深いサツサ
情けの根が深い
4 赤井の雪さえ春くりやとけるよとけて解けない謎はな

◆三等賞

茨城縣平瀧
佐川増藏

1 平繁昌停車場見れば汽車の出入りに人の渦ソソソ
そうとも人の渦

2 ともし萬燈に夜櫻映えて君のお出でを松ヶ岡ソソソ
レそうとも松ヶ岡
3 風も涼しや新川ばたのさくら並木を一連ソソソ
そうとも二人連

◆五等賞

紺屋町二六
新妻育太郎

1 平ナー平愛しや徳尼が情陸奥名所はヤレ稻の上思ひ
いだそと渡るとまよそれ
さなやれさなほいとさな
ひら

2 丹後ナー丹度よい度胸男の意地よまよ命をヤレ池
の中こもる思義は千歳に残
るそれさなやれさなほいと
さななひら

3 櫻ナー櫻乙女の名所は平咲いてうれしやレ松ヶ岡
一度くるもの對馬守も待つ
にそれさなやれさなほいと
さななひら

4 お前ナーお前心を三筋にこめて揺らぐ灯影はヤレ主
を持つ新田町は色里情でお
いでそれさなやれさなほいと
さななひら

5 鎌田ナー鎌田田圃は螢の里よ追ひつ追はれつヤレ奴
みる月は碎けて流れて解け
るそれさなやれさなほいと
さななひら

6 お盆ナーお盆見たかよ平の華を見なきやおいでよヤ
レ嫁つれてやぐら太鼓がま
ねぐじやないかそれさなや
れさなほいとさななひら

7 月のナー月の出た夜は新川堤櫻真下をヤレ見えがく
れ月に酔ほふと濡れよとま
よそれさなやれさなほいと
さななひら

8 月はナー秋は高月月見の丘よ影を踏み／＼ヤレ訪づ
ね來よ昔忘れ雁さへ啼く
よそれさなやれさなほいと
さななひら

9 徳ぶナー徳ぶ城山名残り
はつきぬ誰に思ひをヤレこ
めて撞く昔戀しとあの鐘は
なるそれさなやれさなほいと
さななひら

01 吹くよナー吹くよ湯の獄名物おろし平繁昌のヤレ祝
ひ風一度吹かれて土産にも
ちなそれさなやれさなほいと
さななひら

◆選外佳作

小名濱町
薄羽ゆきじ

1 東京仙臺都の夢をなかにとりもつ平町石炭に名の立つところ花の名所歌どころ
2 咲いた櫻に想ひをよせて松ヶ岡とはしほらしやかす
ひ新川さ／＼やく瀬音影も
ほろに花の道

3 盆の迎ひ火夜を日についで老ひも若やぐ三ヶ日月も
焦れて明けゆくまでは可愛
い踊り子の素振さだめ

4 宵は待たせてくるめく灯仇な横町の明けの鐘昔ながらの三絃の牙えに意地と情
けの雨が降る

5 燃ゆる心をたゞ一すぢに結ぶ縁の尼子橋憂さと思案
を流へ棄て、鎌田通れば郭
公

6 磐城七濱潮の香とめて路も綾なす平町のぶ城山一目に見ゆるあの町あの家な
つかしや

◆選外佳作

平紺屋町六
秋間小路

1 磐城平は住みよい處夏は舞子の汐風吹いて冬にや小雪がチラホラと皆んな來な
んせ櫻の名所磐城耶馬も
みぢ狩

◆選外佳作

平鹿匠町四
中柴新

1 平城山夏草に開へば宿る小露の五萬石なれど江戸ぢや御威勢それ御老中
2 磐石七瀬なさけの海よぼてふり姐さん荷が勝ちます
る鯉いなせでほれ魚の市
3 燃える石ころを炭の山
赤井嶽見りや昔の肌よ平に
ぎやかあれ街の灯
4 踊しなよく自慢の喉よ平
名物喰べろぢやないが一度
見せたやれ盆踊

平町人事

回出 生

△播磨小路一 鈴木政勝氏
長男一

回死 亡

△紺屋町十 關西松(四〇)
△古鍛冶町十一 間宮トメ
(七二)

若者！勇躍して走る

青年分團 對抗驛傳競争

△建國祭の佳辰を卜して

平青年團にては來月十一日、建國祭の佳辰を卜し、體育部主催に依つて分團對抗驛傳競争を行ふ。

計劃で あるが區間は

草野驛前國道と平町元磐銀前を五コースに區分し、分團五名宛の選手が分團メンバーを胸背に付けて其雄姿をスタートに現す事になつて居り分團對抗である丈に其の責任は重く

熱狂的 場面を展開する

であらうと期待される因に優勝分團にはマルカ運動具店寄贈の優勝カップ、優勝メダル其他賞品を贈る由尙ほ當日の係員は左記の如くである。

- (總務部) 多田井笑次郎、金成宗一郎、後藤桂仙、鈴木康、齋藤英三郎、加藤正保、鈴木武雄、(出發分團) 一コース途中審判) 志賀遠平、石坂一雄、本間三郎(二コース途中審判) 山野邊久利、永島磯惣太(三コース途中審判) 草野源四郎、楡山忠太郎(四コース途中審判) 橋三郎、關内甚平、國井孝道、川角豊太郎、吉田松雄、根本弘、志賀子之松、石山一治、石川博、青天目源一郎、比佐彦太

欠食兒童に

聖公會寄附

平町播磨小路日本聖公會平聖ミカエル海岸教會では平町及湯本の日曜學校生徒の献金の内より金五圓を平各小學校の欠食兒童への資金にして戴き度いと平町役場に寄附した

初老の記念

鐵骨火の見を寄附

石城郡内郷村消防組組頭代理佐藤三平氏は本年を以て四十二才となり初老に入つたのを記念すべく小島部落内に工費四百圓を以つて四十四尺の鐵骨火の見櫓を建設寄附する事に決定小島部落員廿八名が出動して十四日より基礎工事の土盛を行つたが竣工は二月八日頃の豫定である

麻雀に耽ける

怪しい男

平荒しを告白

窃盜前科一犯の賊

平町に最近コソ泥が徘徊し三丁目谷平益三外十數ヶ所に被害があるので平署では犯人嚴探中の處十六日夜十時頃平署刑事が田町麻雀俱樂部内を内偵中一名の男を舉動怪しと睨み平署に引致取調べると石城郡赤井村宇北郎生れ住所不定窃盜前科一犯木田勇(三)とて前記益平方其他窃盜の事實を自白したが昨年十二月東京巢鴨刑務所を出て平町方面に流

女子卓球

優勝は大橋嬢

既報郡下女子卓球選手権大會は昨午前十時より四丁目丸トモホール樓上に行はれ郡下十七名餘の選手によつて戦はれた結果優勝者好間村古河炭礦警務局員大橋嬢に落ちた

青年体育

本年の行事

平青年團體育部にては別項の如く三月十一日驛傳競争を初め本年度の行事左記の如く決定した

- (四月) 分團對抗軟式野球大會(五月) 武道大會、庭球大會(七月) 體育選手権大會(八月) 水上競技大會(十月) 町民體育大會(十一月) 町民體育大會

列車の車輪から

異様な車輪から 胴体眞ツ二つの屍体

十六日午後十一時二十分頃石城郡神谷村字鹽地内常磐線を原町驛の運轉手原重光が上り二九四貨物列車を運轉進行中異様音響が聞えたので急停車し取調ると車輪の傍らに一見土風五十五才位の男が胴體を眞二つに裂かれて絶命してゐるのに驚いて其筋に届出たが所持品としては現金十錢とナイダー瓶に酒を詰めた外駄菓子等を少々持つてゐたのみで身元判明せず一應村役場へ引渡した

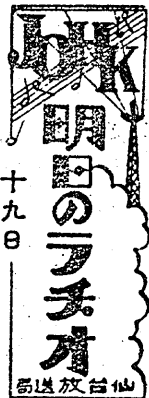
金の切れ目が

縁の切れ目か 薄情な仕打ちに 寡婦が怒つて告訴

石城郡内郷村宇平太郎六八の姪田シツ(三)は昭和三年亭主である不動澤炭礦坑夫蛭田淺次郎が落盤の爲め死亡し會社から扶助料として六百圓を受け取らぬ名の子供を抱へ寡婦として坑内稼を以て居た際當時電工であつた權平甚太がシツの六百圓に目を付け昭和五年五月頃から言葉巧みに同情を寄せると見せて遂にシツと同棲する事になり以來甚太はシツの六百圓を捲き上げ様と三年十月頃シツが同人に磐城銀行へ二百圓の預金を依頼した處内百八十圓を横領し翌年は何時迄も坑内稼を以て居たから家を建て商賣を初め様として五百八十圓を以て家を新築したが名儀は甚太のものとして商賣初め思ふ様にゆかぬうち甚太は勤先の公金を百圓消費した

大浦共同販賣

農業倉庫の共同販賣は十五日午前十時より行はれ七百廿九俵を入札に附した結果最高七圓八十五錢を以つて四倉町の根本金七氏に落札された



明日のラジオ 十九日 今晚も明日も北西の風晴一時曇り

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間) 少年運動講座「ウイニングスポーツ」小島六郎、御八、〇〇管絃樂(府下在原町新響演奏所より中継)日本放送交響樂團、後九、〇〇連續二人漫談「一九三二年風景」二、德

明日の部

- 川夢聲 古川緑波、前九、二〇料理献立「フリカッセ、チキン」青井竹子、前一〇、三〇家庭講座「國字四番の語」東京高等師範學校囑託 馬淵冷祐、後〇、〇五浪花節「大石

空巢専門の賊

十六日午後八時頃石城郡湯本町八仙坑夫長岸山田好美方留守中に忍入り衣類其他を窃取逃走せんとするのを駐在所員が取押へ取調ると宮城縣上郡色浅町生住所不定竈原秀吉(三)と云ひ磐崎、小名濱、内郷等にて空巢専門に十數件の犯行を自白したので目下平署で取調中

勇士の慰靈に

弔旗を寄贈

石城郡出身大久保、荒南上等兵の遺骨は廿日午後三時五十九分列車にて若松市に到着翌廿一日若松市公會堂にて慰靈祭が行はれるので石城町村長支會では弔旗を贈る事になつたが當日は大久保上等兵出身の上遠野村より荒川村長が出席する筈である

小説 七五郎

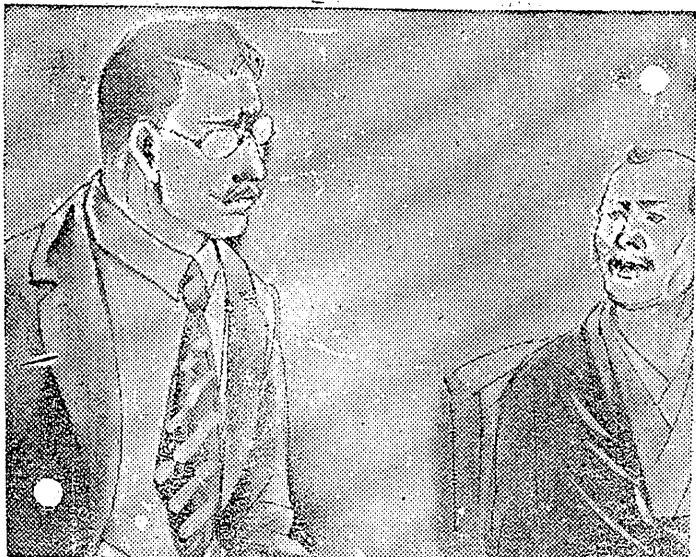
(百廿一)

渡邊 默禪 作
布施 平八郎 畫

親族 會議 (6)

「有るとも。開きたけりや幾らでもある。手前はあの日、階下の重役室に入つてゐやがつて如何したい早乙女の野郎とこそり／＼筆談したのは何だ、何を書きやあがつたつたんだ。手前の入足に何を差圖した。誰も知るめえと思つてあからうが、悪事千里だ、節穴にも目、ちやんと見てゐた人が有つたのを知らねえか、この家の借財だつて實際に借込んだものぢやあるめえ。早乙女や植野と馴合でもつてい、加減にこしらえ上げた幽霊借金、店の色をさらつて穴埋をするやうに見せかけちやあ右から左と筒抜けに手前の懐中に轉つて来るやうに仕かけてあつたに違えねえ。なア、然うたらう。そんなベレンにかけあかつて、主人の財産をふん奮るから泥棒といつたんだ泥棒も泥棒、金箔付の大泥棒だ。手前のやうな奴は婆はぜいたくだ。薄ッ暗え赤煉瓦のへやのなかでよ。ゴソリ／＼経木編でも爲やあがつて、モシ／＼擔當さん／＼と哀れッばい聲で看守を呼んでゐるのが柄相應方

「おい、何とか言ひねえな。返辭がでねえのか外道奴！」
躍起となつて怒號した。川島はにやりと笑つて「皆様に申し上げます。この木村は發狂したやうに私に



見受けられますが……
「何だと！」
清作は烈火のやうになつて腕巻くりをするが早いかにいきなり傍の椅子を押取つて真向に振りかぶらうとした。それを源之助が急いで押へ止めた。一座の人は……

時練立になつた。川島は無頓着に語をつづけた。
「併し皆さまは眞逆に精神病者を参考人として此處へお呼びになる氣つかいはありませんまいから、普通の常識を持つた人間として、私から……一應辯明しますせう……殆んど辯明する價値もないことですが……木村の言は九分九厘まで私に對するざんぷであつて、具体的事實としては私が湖月で債権者側に遇つたといふことで、差押への當日債権者と筆談したといふ此

二点に過ぎません。湖月で二人に會見したのはそれは事實ですが、それは競賣前に差押へを解かせ、何とか示談にしたい考へから無理に二人に迫つて會見の上談判したのでありまして少しも後暗いことはないであります。」

「嘘……嘘をつきやあがれ。」
清作は俄鳴つた。
「それから重役室で筆談したといふのは、何を指していつたのか私には見當がつかせませんけれども、或は執行最中、債権者から請求した元利金に間違ひがあるのを發見して、それを訂正させたために計算書をこしらへて早乙女に示してゐたのを然う見違へたのかも知れません。いや、故意に尾ひれをつけてそんなことを言つたのでせう。元來私としては……」
「何を言つてあがるんだ。生しやあ／＼とよくもそんな出鱈目を……此方にやあ證據があるんだぞ……證據が……」
「なに證據がある？必とく川島は凄じい目をじろりとくれて
「有るなら拜見いたさう。」とむくいてから椅子に凭つた

誠に便利な
商 品 券
いさ下用利御率何
番六八二話電

平町南町
鳥 肉 商 鳥 菊

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

高久病院
院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科
平町田町 電話五一三番

純植物性 ポマード
優良にして徳用經濟なる
特製のハカリ賣リ
ポマード及クリームの御使用をおす
めいたします
純植物性 ポマード
純良なる精油を以て精製したるもので石鹼で一度洗ひばサラリと落ちます
弊店で友達や知人によつて試めした上の自慢の製品です一度お使用を願ひます
高級 クリーム
今まで、ハカリ賣リクリームと云ふと、瓶詰のクリームより悪いとの定評でありましたがこのクリームはその様なこと絶對ありません
弊店特製……保證の品です、お最負を願ひます。瓶詰よりは随分お徳です
精 正 椿 油
髪油の選擇は分御注意を拂はねばなりません、粗悪な油の御使用は髪のため却つて非常なる弊害を來します。安心して御使用の出来る當店取扱の正椿油(一合六十錢)の御使用をおすめいたします
大島 特産
正椿油特約販賣店
田卷香油店
平二丁目 電話四一五番

内小兒科花柳病科
藤 沼 醫 院
應需院入
平町南町 電話七〇五番

お醤油は ヤマフル
醬油 味噌
たひら 正宗
鯨節 食料品
鹽 屋
山崎合名會社
福島縣平町電話營業部三醸造工場
明治生命磐城代理店 山崎與三郎